

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都造形芸術大学
設置者名	学校法人瓜生山学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
芸術学部	美術工芸学科	夜・通信	0	0	24	24	13	
	マンガ学科	夜・通信			22	22	13	
	キャラクターデザイン学科	夜・通信			64	64	13	
	情報デザイン学科	夜・通信			34	34	13	
	プロダクトデザイン学科	夜・通信			44	44	13	
	空間演出デザイン学科	夜・通信			26	26	13	
	環境デザイン学科	夜・通信			52	52	13	
	映画学科	夜・通信			42	42	13	
	舞台芸術学科	夜・通信			32	32	13	
	文芸表現学科	夜・通信			30	30	13	
	アートプロデュース学科	夜・通信			27	27	13	
	こども芸術学科	夜・通信			20	20	13	
歴史遺産学科	夜・通信	18	18	13				
芸術学部 通信教育部	全学科	夜・ <u>通信</u>	14			14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにて web 公開とする

【通学課程】

<https://www.kyoto-art.ac.jp/student/teaching/pdf/subject.pdf>

【通信教育課程】

<http://w.guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/ccb1bedbfc2160c286d7c22303923097.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都造形芸術大学
設置者名	学校法人瓜生山学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページにて公表 https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/3-2.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長	2015/1/29 ~ 2021/6/10	組織運営体制への チェック機能
非常勤	学校法人理事長	2012/4/1 ~ 2021/6/10	組織運営体制への チェック機能
非常勤	企業 取締役副社長	2019/6/11 ~ 2021/6/10	組織運営体制への チェック機能
非常勤	国会議員	2013/6/11 ~ 2021/6/10	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都造形芸術大学
設置者名	学校法人瓜生山学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【通学課程】</p> <p>○授業計画(シラバス)の作成過程</p> <p>①カリキュラム・ポリシーに則り、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを作成</p> <p>②カリキュラムマップに定める授業科目の概要と到達目標にもとづき担当教員を確定</p> <p>③学部共通の「シラバス作成の手引き」に則り、各科目担当教員が以下の項目から構成される授業計画(シラバス)を作成</p> <p>授業の目的と概要/授業の方法/D Pに定める能力要素との関係/到達目標 評価基準/評価方法/授業計画/事前・事後学習の内容/テキスト・参考図書 ※評価基準については学則に以下のように定めている</p> <p>試験等の評価は、S、A、B、C、D、Fをもって表し、C以上を合格とする。</p> <p>S 90～100 特に優れている A 80～89 優れている B 70～79 標準である C 60～69 合格と認められる最低限の成績である D 0～59 不合格 F — 評価対象外</p> <p>④学科長による全科目のシラバス記載事項の確認及び承認</p> <p>⑤学部長によるシラバス記載事項の確認及び決裁</p> <p>⑤公開</p> <p>○授業計画(シラバス)の作成・公表時期</p> <p>12月～2月 授業計画の作成 3月 公表</p> <p>【通信教育課程】</p> <p>・授業計画(シラバス)の作成過程</p> <p>①カリキュラム・ポリシーに則り、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを作成</p> <p>②カリキュラムマップに定める授業科目の概要及び到達目標にもとづき担当教員を確定</p> <p>③各科目担当教員が以下の項目から構成される授業計画(シラバス)を作成(履修形態/科目概要と到達目標/履修方法/科目概要と到達目標/評価基準/成績評価方法/テキスト・参考図書)</p> <p>④コース主任による全科目のシラバス記載事項の確認及び承認</p> <p>⑤学部長によるシラバス記載事項の確認及び決裁</p> <p>⑤公開</p> <p>・授業計画(シラバス)の作成・公表時期</p> <p>12月～2月 授業計画の作成 3月 公表</p> <p>上記のように「シラバス」において科目毎に単位数を明記しており、成績評価については評価基準と成績評価方法を『学習ガイド』に明示し、これに基づいて評価をおこなっている。シラバス、ホームページ、ガイダンス等で単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準を学生へ周知する機会を十分に設け、厳正な運営を行なっている。</p>

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>【通学課程】 ホームページに記載 https://n1.kyoto-art.ac.jp/campusweb/top.do?_ga=2.166615230.1638816795.1559259530-738051405.1494815078 【通信教育課程】 ホームページに記載 http://w.guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/guide/6748</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>【通学課程】</p> <p>○学生の学修意欲の把握 シラバスに事前・事後学習に関して必要な情報を記載し、授業改善アンケートの学修意欲に関する設問及び事前・事後学習に関する設問の結果により学生の学修意欲の把握を行っている。</p> <p>○単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況 学部共通の「成績評価に関するガイドライン」を定め、成績評価基準（S：特に優れている A：優れている B：標準である C：合格と認められる最低限の成績である D：不合格）・評価分布の目安・評価方法（試験・レポート・成果物等）等を全教員に周知し、成績評価の方法をシラバスにあらかじめ記載することを求め、学修成果に基づく厳格かつ適正な単位授与を行なっている。 また、成績評価に関するFDの実施及びsemester毎に全授業科目の成績評価の分布を検証するなど、ガイドラインの実質化を図っている。</p> <p>【通信教育課程】</p> <p>1 単位の授業は 45 時間の学習を前提としている。 面接授業は、講義科目が 15 講時 2 単位、演習科目が 30 講時 2 単位としている。 印刷教材による授業は、A5 版テキスト 100 ページの教材を 1 単位相当として指定し、1 単位 1,600 字相当のレポート（作品）課題提出と単位修得試験を課している。 成績評価については評価基準と成績評価方法を「学習ガイド」に明示し、これに基づいて評価をおこなっている。 成績評価基準（90-100 点＝秀、80-89 点＝優、70-79 点＝良、60-69 点＝可、0-59 点＝不可）、評価分布の目安、評価方法は全教員に周知されており、厳格かつ適正に実施されている。進級については卒業（修了）研究・制作に取り組む前年度末までに満たしておくべき要件として卒業（修了）研究・制作着手要件を設けている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【通学課程】</p> <p>○GPA等の客観的な指標の具体的な内容 各科目の単位あたりの評価平均であり、科目ごとの成績評価に対してグレードポイント (GP S = 4、A = 3、B = 2、C = 1、D = 0、F = 0) をつけて全履修科目の平均を算出したもので、下記の計算式で算出している。 $GPA = (\text{履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修科目単位数の総和}$</p> <p>○GPA (客観的な指標) の適切な実施状況 上述したGPAの具体的な内容を大学ホームページ及び全学生に配布する「学修ガイドブック」に掲載し学生に周知を図っている。また、学修ポートフォリオシステム及び学期毎に全学生に郵送される成績通知書に学期GPA及び累積GPAを記載することで、各学生の成績がどの位置にあるかを把握する事ができるようにしている。</p> <p>○成績の分布状況の把握 学期毎に、学科・年次毎のGPAの分布を集計し把握している。</p> <p>【通信教育課程】</p> <p>科目毎の成績評価に対してGP (グレートポイント) をつけて、全履修科目の単位あたり平均をGPAとして算出し、「学習ガイド」で公表している。</p> <p>算出方法 $GP = (100 \text{点満点の成績素点} - 54.5) \div 10$、ただし$GP < 0.5$は$GP = 0$とする $GPA = (GP \times \text{当該単位の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修総単位数 (小数点第3位四捨五入)}$ 上記GPAの分布状況を集計、把握している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページに記載</p> <p>【通学課程】 https://www.kyoto-art.ac.jp/student/teaching/pdf/gpa.pdf</p> <p>【通信教育課程】 http://w.guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/9c4bf19e8d4bbfab74dc71d05ae8276c.pdf</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【通学課程】</p> <p>○卒業の認定に関する方針の具体的な内容</p> <p>京都造形芸術大学学士課程は、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す「創造力」と、自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく「人間力」を備え、生涯を通して学び続け、社会を変革する新しい価値を発信し続ける人材を育成します。</p> <p>「創造力」は豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す力 好奇心をもって世界を観察し、知を求め発見することができる「探求力」 ものごとの関係性を見つけ、経験や知識をもとに考えることができる「思考力」 独自のイメージを発想し実現へ向けて計画することができる「発想・構想力」 イメージやコンセプト、プランをさまざまな方法でかたちにできる「表現力」</p> <p>「人間力」は自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく力 みずから積極的、社会的に行動することができる「行動力」 目標に向かって、あきらめることなく続けることができる「継続力」 他者を知り協調し、よりよい関係を築くことができる「コミュニケーション力」</p> <p>○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況</p> <p>上述した「7つの能力」をバランス良く身につけられるよう、カリキュラム・マップ及びシラバスで科目毎に伸ばすことができる能力を学生に明示し、学習を進めることで「7つの能力」が修得できる教育課程編成を行なっている。卒業の要件として、4年以上在学し創造学習科目（一般教養）から選択、必修の条件を充たして40単位以上（うちキャリア創出科目群から6単位以上）、専門科目から必修、選択の条件を充たして60単位以上、合計124単位以上修得することと定め、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書を授け、学士（芸術）の学位を授与している。</p> <p>【通信教育課程】</p> <p>本学ディプロマポリシー「京都造形芸術大学学士課程は、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す「創造力」と、自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく「人間力」を備え、生涯を通して学び続け、社会を変革する新しい価値を発信し続ける人材を輩出します」にのっとり、教育課程編成を行なっている。卒業の要件として、専門科目から必修、選択の条件を充たして60単位以上、総合教育科目と合わせて合計124単位以上（内スクーリング30単位以上）修得することと定め、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書を授け、学士（芸術）の学位を授与している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>学習ガイド及びホームページに記載</p> <p>【通学課程】 https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/goal/</p> <p>【通信教育課程】 http://w.guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/8ab1160fa79902357636c4d6bb654ca3.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都造形芸術大学
設置者名	学校法人瓜生山学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/3-1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/3-1.pdf
財産目録	https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/3-1.pdf
事業報告書	https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/3-2.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/3-3.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 瓜生山学園 VISION2021	対象年度: 2017~2021)
公表方法: 大学ホームページに記載 https://www.kyoto-art.ac.jp/info/pdf/vision2021.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページに記載 https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/evaluation/self/pdf/2017.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページに記載 https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/evaluation/accreditation/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページに記載） https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/1-1-2.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>○大学の基本使命 芸術を学ぶ者達に、人類危機の時代を克服しようとする強い意志をどう植えつけるか。他者の痛み想像力を働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう養うか。困難な問題を解決し社会を変革する創造力をどう身につけさせるか。すなわち、芸術家魂をもった者達をどう世の中に送り出すか。芸術立国とは、芸術立国を担う人間の育成にはかならず、それこそがわが学園の最も重要な使命である。</p> <p>○建学の理念 芸術的創造と哲学的思索によって、良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造を目指す。</p> <p>○教育目標 人類が直面する困難な課題を克服する人間の「想像力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることのできる人材の育成。芸術文化を原動力とする新しい文明への展望と人類と自然への深い愛情に満ちた哲学の確立。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページに記載） https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/1-1-2.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>京都造形芸術大学学士課程は、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す「創造力」と、自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく「人間力」を備え、生涯を通して学び続け、社会を変革する新しい価値を発信し続ける人材を育成します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページに記載）</p> <p>【通学課程】 https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/1-1-2.pdf</p> <p>【通信教育課程】 http://w.guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/Guide2019_ALL.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>【通学課程】</p> <p>京都造形芸術大学通学部学士課程のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる「創造力」「人間力」、それらを構成する 7 つの能力をバランスよく身につけることができることを方針としています。</p> <p>「創造力」は豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創りだす力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好奇心をもって世界を観察し、知を求め発見することができる「探求力」 ・ものごとの関係性を見つけ、経験や知識をもとに考えることができる「思考力」 ・独自のイメージを発想し実現に向けて計画することができる「発想・構想力」 ・イメージやコンセプト、プランをさまざまな方法でかたちにできる「表現力」 <p>「人間力」は自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みずから積極的、社会的に行動することができる「行動力」 ・目標に向かって、あきらめることなく続けることができる「継続力」 ・他者を知り協調し、よりよい関係を築くことができる「コミュニケーション力」

カリキュラムは、「創造学習科目」「専門教育科目」をその二本の柱としており、それらを構成する各科目の編成方針は次のとおりです。・「創造学習科目」には、「創造力」「人間力」の基盤を形づくる「創造基礎科目」、これからの学習に必要となる教養や基礎力を身につける「基礎教養科目」「応用教養科目」、自分自身のキャリアをイメージし、それを現実に変えていく力を獲得する「キャリア創出科目」が含まれます。・「専門教育科目」には、学生一人ひとりが目指す専門的な目標を達成するための「専門科目」、学生のキャリアを資格面でサポートする「教職科目」「学芸員科目」が含まれます。また、カリキュラムの運営にあたり、上記7つの能力を、各科目の運営の指針とし、かつ評価指標とします。また、学生一人ひとりの習熟度、キャリアプランに応じた履修指導・学習指導を行います。

【通信教育課程】

京都造形芸術大学通信教育部学士課程のカリキュラムは、「創造力」と「人間力」を高めるために「総合教育科目」「学部共通専門教育科目」「コース（学科）専門教育科目」で構成されています。

- ・ 総合教育科目では、教養ある市民の備えるべき基本的な知識、視点、リテラシーを学び、他者とのつながりを尊重する力を磨きます。
- ・ 学部共通専門教育科目では、芸術を学ぶものにとって基盤となる知識、見識、技能を養い、ひとりひとりの生活環境を芸術によって充実させる力を養います。
- ・ コース（学科）専門教育科目では、それぞれの分野における専門性を獲得し、旧来の価値観に囚われない芸術的創造を生み出し、世界各所へ送り届ける力を身につけます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページに記載）

【通学課程】

<https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/1-1-2.pdf>

【通信教育課程】

http://w.guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/Guide2019_ALL.pdf

（概要）

【通学課程】

京都造形芸術大学芸術学部のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに掲げる「創造力」「人間力」、およびそれらを構成する「7つの能力」を身につけようとする意欲と素養を持った人の入学を期待しています。そのため、入学までに以下の能力や態度を身につけた人を求めています。

- ・ 生涯を通じて学び続けるための基盤としての基礎的・基本的な知識・技能を習得した人
- ・ 知識・技能を活用して、答えが一つに定まらない課題を解決できる思考力・判断力・表現力を習得した人
- ・ 主体性を持って積極的、社会的に多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた人

上記を身につけた多様な入学希望者を評価するために、表現技術の優劣だけにとらわれず、多角的な評価基準を備えた入学試験を実施します。

【通信教育課程】

芸術学部通信教育部では、芸術やデザインに関心を持ち、それぞれの生きる場でありながら、柔軟な思考をもって他者と協力して社会に貢献しようとする志と意欲を持つ人を受け入れています。入学志望者には特に以下の点を期待しています。

- ・ 現代の人間・自然・社会の諸現象について問題意識を持つこと。
- ・ 他者の理解を得ながら学ぼうとする真摯な姿勢を持つこと。

必要な知識や技術をみずから学び身につけること。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページに記載

<https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/summary/pdf/overview.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）								
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計	
—	5人	—					—	人
芸術学部 (通学課程)	—	114人	60人	32人	1人	0人	207人	
芸術学部 (通信教育 課程)	—	4人	4人	0人	0人	0人	8人	
b. 教員数（兼務者）								
学長・副学長			学長・副学長以外の教員			計		
0人			0人			0人		
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：HP 公開 https://www.kyoto-art.ac.jp/info/teacher/						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）								

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
芸術学部(通 学課程)	910人	982人	108%	3,296人	3,587人	109%	13人	11人
芸術学部(通 信教育課程)	650人	728人	112%	4,550人	7,430人	163%	1,950人	4,244人
合計	1,560人	1,710人	109%	7,846人	11,017人	140%	1,963人	4,255人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
芸術学部(通学課程)	701人 (100%)	47人 (7%)	599人 (85%)	53人 (8%)
芸術学部(通信教育課程)	603人 (100%)	-人 (-%)	-人 (-%)	-人 (-%)
合計	1,304人 (100%)	47人 (-%)	599人 (-%)	53人 (-%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【通学課程】</p> <p>○授業計画(シラバス)の作成過程</p> <p>①カリキュラム・ポリシーに則り、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを作成</p> <p>②カリキュラムマップに定める授業科目の概要と到達目標にもとづき担当教員を確定</p> <p>③学部共通の「シラバス作成の手引き」に則り、各科目担当教員が以下の項目から構成される授業計画(シラバス)を作成</p> <p>授業の目的と概要/授業の方法/D Pに定める能力要素との関係/到達目標 評価基準/評価方法/授業計画/事前・事後学習の内容/テキスト・参考図書 ※評価基準については学則に以下のように定めている</p> <p>試験等の評価は、S、A、B、C、D、Fをもって表し、C以上を合格とする。</p> <p>S 90~100 特に優れている A 80~89 優れている B 70~79 標準である C 60~69 合格と認められる最低限の成績である D 0~59 不合格 F - 評価対象外</p> <p>④学科長による全科目のシラバス記載事項の確認及び承認</p> <p>⑤学部長によるシラバス記載事項の確認及び決裁</p> <p>⑤公開</p> <p>○授業計画(シラバス)の作成・公表時期</p> <p>12月~2月 授業計画の作成</p>
--

3月 公表

【通信教育課程】

- ・授業計画（シラバス）の作成過程
 - ①カリキュラム・ポリシーに則り、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを作成
 - ②カリキュラムマップに定める授業科目の概要及び到達目標にもとづき担当教員を確定
 - ③各科目担当教員が以下の項目から構成される授業計画（シラバス）を作成（履修形態／科目概要と到達目標／履修方法／科目概要と到達目標／評価基準／成績評価方法／テキスト・参考図書）
 - ④コース主任による全科目のシラバス記載事項の確認及び承認
 - ⑤学部長によるシラバス記載事項の確認及び決裁
 - ⑥公開
- ・授業計画（シラバス）の作成・公表時期
 - 12月～2月 授業計画の作成
 - 3月 公表

上記のように「シラバス」において科目毎に単位数を明記しており、成績評価については評価基準と成績評価方法を『学習ガイド』に明示し、これに基づいて評価をおこなっている。シラバス、ホームページ、ガイダンス等で単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準を学生へ周知する機会を十分に設け、厳正な運営を行なっている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

【通学課程】

- 学生の学修意欲の把握
シラバスに事前・事後学習に関して必要な情報を記載し、授業改善アンケートの学修意欲に関する設問及び事前・事後学習に関する設問の結果により学生の学修意欲の把握を行っている。
- 単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況
学部共通の「成績評価に関するガイドライン」を定め、成績評価基準（S：特に優れている A：優れている B：標準である C：合格と認められる最低限の成績である D：不合格）・評価分布の目安・評価方法（試験・レポート・成果物等）等を全教員に周知し、成績評価の方法をシラバスにあらかじめ記載することを求め、学修成果に基づく厳格かつ適正な単位授与を行なっている。
また、成績評価に関するFDの実施及びsemester毎に全授業科目の成績評価の分布を検証するなど、ガイドラインの実質化を図っている。
- 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況
上述した「7つの能力」をバランス良く身につけられるよう、カリキュラム・マップ及びシラバスで科目毎に伸ばすことができる能力を学生に明示し、学習を進めることで「7つの能力」が修得できる教育課程編成を行なっている。卒業の要件として、4年以上在学し創造学習科目（一般教養）から選択、必修の条件を充たして40単位以上（うちキャリア創出科目群から6単位以上）、専門科目から必修、選択の条件を充たして60単位以上、合計124単位以上修得することと定め、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書を受け、学士（芸術）の学位を授与している。

【通信教育課程】

- 1 単位の授業は45時間の学習を前提としている。面接授業は、講義科目が15講時2単位、演習科目が30講時2単位としている。印刷教材による授業は、A5版テキスト100ページの教材を1単位相当として指定し、1単位1,600字相当のレポート（作品）課題提出と単位修

得試験を課している。成績評価については評価基準と成績評価方法を「学習ガイド」に明示し、これに基づいて評価をおこなっている。成績評価基準（90-100点＝秀、80-89点＝優、70-79点＝良、60-69点＝可、0-59点＝不可）、評価分布の目安、評価方法は全教員に周知されており、厳格かつ適正に実施されている。進級については卒業（修了）研究・制作に取り組む前年度末までに満たしておくべき要件として卒業（修了）研究・制作着手要件を設けている。

○単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況

学部共通の「成績評価に関するガイドライン」を定め、成績評価基準（S：特に優れている A：優れている B：標準である C：合格と認められる最低限の成績である D：不合格）・評価分布の目安・評価方法（試験・レポート・成果物等）等を全教員に周知し、成績評価の方法をシラバスにあらかじめ記載することを求め、学修成果に基づく厳格かつ適正な単位授与を行っている。

また、成績評価に関するFDの実施及びび Semester毎に全授業科目の成績評価の分布を検証するなど、ガイドラインの実質化を図っている。

○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

本学ディプロマポリシー「京都造形芸術大学学士課程は、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す「創造力」と、自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく「人間力」を備え、生涯を通して学び続け、社会を変革する新しい価値を発信し続ける人材を輩出します」にのっとり、教育課程編成を行なっている。卒業の要件として、専門科目から必修、選択の条件を充たして60単位以上、総合教育科目と合わせて合計124単位以上（内スクーリング30単位以上）修得することと定め、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書を受け、学士（芸術）の学位を授与している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
芸術学部 (通学部)	美術工芸学科	124 単位	有	48 単位
	マンガ学科	124 単位	有	48 単位
	キャラクターデザイン学科	124 単位	有	48 単位
	情報デザイン学科	124 単位	有	48 単位
	プロダクトデザイン学科	124 単位	有	48 単位
	空間演出デザイン学科	124 単位	有	48 単位
	環境デザイン学科	124 単位	有	48 (1年次のみ 51) 単位
	映画学科	124 単位	有	48 単位
	舞台芸術学科	124 単位	有	48 単位
	文芸表現学科	124 単位	有	48 単位
	アートプロデュース学科	124 単位	有	48 単位
	こども芸術学科	124 単位	有	48 (1年次のみ 53) 単位
	歴史遺産学科	124 単位	有	48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに記載

<https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/pdf/1-3.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載 事項)
芸術学部 (通学課 程)2019年 年度生	文芸表現、アートプロデュース	1,050,000円	200,000円	115,000円	
	歴史遺産	1,050,000円	200,000円	145,000円	
	美術工芸、マンガ、情報デザイン、空間演出デザイン、環境デザイン、舞台芸術、こども芸術	1,320,000円	200,000円	315,000円	
	映画、キャラクターデザイン、情報デザイン(クロステックコースのみ)	1,320,000円	200,000円	365,000円	
	プロダクトデザイン	1,320,000円	200,000円	345,000円	

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載 事項)
芸術学部 (通信教育 課程)2019 年度生	芸術教養学科	170,000円	30,000円	0円	
	芸術学科	231,000円	30,000円	140円	
	美術科(日本画コース、洋画コース)	300,000円	30,000円	140円	
	美術科(陶芸コース、染織コース、写真コース)	323,000円	30,000円	140円	
	デザイン科	323,000円	30,000円	140円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>【通学課程】 履修支援：新入生ガイダンス、在學生ガイダンス、履修相談、履修登録・履修修正、成績通知書 配付、成績確認、履修相談、既修得単位認定、単位互換制度対応、転学科・転コース相談、休学・退学・復学・再入学・転籍・編入相談等を行なっている。 研究支援：創作・研究補助制度の掲示、説明会の実施、申込書類のとりまとめ、審査会運営、採否連絡、授与式運営等の各種手続きを行なっている。研究・制作・発表助成制度の掲示、説明会の実施、申込書類のとりまとめ、審査会運営、採否連絡、出金依頼受付等の各種手続きを行なっている。 その他にも、生活支援、経済支援、留学生支援、障がいを持つ学生の支援も行っている。</p> <p>【通信教育課程】 履修支援：新入生ガイダンス、履修相談、成績通知書 配付、成績確認、既修得単位認定、転学科・転コース相談、休学・退学・復学・再入学・転籍・編入相談等を行なっている。 研究支援：学生創作研究助成金制度の告知、各種手続きを行なっている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>就職支援、進学支援：就職や進学について個別相談や個別指導を行うとともに、大学全体の学生支援策を立案する。求人や企業説明会について企業開拓を行うとともに、企業と学生とのコーディネートも行う。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生への保健・衛生対応：学生一人ひとりが、自己の健康管理に関心を持ち、豊かな学生生活を送ることができるよう、健康支援を行なう。

カウンセリング等の面談、メンタルヘルス相談：日常生活の中で起こる様々な悩みや問題について共に考え、解決するための相談を行なう。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに記載

<https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/disclosure/2019/>